

## 2020年度新入生への学長訓示（入学歓迎式）

本年4月に広島市立大学に入学された432名の学部新入生の皆さん、入学から半年が経過しましたが、改めまして広島市立大学へのご入学おめでとうございます。広島市立大学を代表して、皆さんの入学を心より歓迎します。

本来であれば、この4月に本学に入学した皆さんは、緑あふれる広島市立大学のキャンパスにおいて、勉学に、課外活動に励み、多くの新しい友人と出会い、充実した学生生活が始まるはずだったところ、思わぬ新型コロナウイルスの感染拡大により、入学式は中止となり、授業は5月11日からのオンライン授業開始まで、1か月以上の繰り延べとなりました。オンライン授業開始後も大学キャンパスに来る機会もないまま前期授業期間を終えた新入生も多いと思います。感染拡大防止のためのやむを得ない措置とは言え、通常とは大きく異なる形での大学生活のスタートとなったことに、学長として、大変、申し訳なく思っています。しかしながら、本日、こうして新入生歓迎式を開催し、皆さんを大学キャンパスに迎えることができましたことは、大変、うれしく思います。

今はまだコロナ禍が収まっていない、ウィズコロナの時代です。しかしながら、コロナ禍は必ず終わりが来ます。この状況において、私達はどのように新型コロナウイルスと向き合い、そしてコロナ禍が収束したのちのアフターコロナの時代を迎えればよいのか。新入生の皆さんは、自らが望んだわけでは決まらずに、ウィズコロナからアフターコロナへの時代の転換点に学生生活を送ることになります。そこで、本日の私の訓示では、新型コロナウイルスとの共生を避けることができない大学生活において、是非、皆さんに考えてもらいたい2つのことを述べたいと思います。

ひとつは人間の未来の選択についてです。新型コロナウイルスのパンデミックにより、新型コロナウイルスへの対応を巡って世界中で様々な対立が顕

在化しています。例えば、国際協調主義と自国第一主義、民主主義とポピュリズム、感染拡大防止重視と経済回復重視、個人の自由重視と公共の福祉重視、グローバリズムと反グローバリズム、などです。これらは相互に関係しあい、利害も複雑に絡みあっていますので、単純な答え、あるいは万人が納得する答えはないことは明白です。例えば、マスク着用一つとっても、日本ではマスクの着用に違和感を抱く人は少ないですが、米国では、個人の自由と結び付けて、一部では激しい反発があります。

私は、こうした二項対立的な問題について、こういう風に考えてほしい、このように行動してほしい、と言いたいものではありません。そうではなくて、新型コロナウイルス終息後の世界はどうあるべきか、自分で考えてほしい、ということです。私達はこの地域、この日本という国、あるいはこの地球上で共に生きている人間同士であり、共に生きていく以外の道はないのですから、何等かの解決策を見出すことが必要です。そして、その解決策は、これからの21世紀を生きる皆さんには直接、大きな影響を与えるはずですから、自分の問題として、アフターコロナのあるべき世界を考え、自分なりの解決策を追求してほしいと思います。そのためには、本を読むことも必要でしょう。多くの人と話すこと、意見を交わすことも重要です。現地に行って自分の目で確かめることも有用です。

もう一つ考えてほしいことは、自分の未来の選択についてです。すでに自分の将来について、いろいろと考えて計画を立てている人もいるでしょう。最初に述べた人間の未来の選択とも関連しますが、自分の将来に真剣に向き合ったとき、その前提であるこれまで当たり前と思われたことが、コロナによって変わってしまっていることに気づくはずですが、例えば、自分が将来活躍したい地域や業種・企業についてです。アフターコロナの世界では、テレワークが劇的に普及しそうです。そうなれば、大都市の大企業で働く、という従来のステレオタイプの職業観は時代遅れになるかもしれません。これまでは働く場所と居住する場所が近い、つまり職住近接が原則でしたが、テレワークの普及は

そうした常識も時代遅れなものになりそうです。広島に住みながら最先端の仕事をするのも簡単になる可能性も高いでしょう。海外での仕事に興味があれば、大都市の大企業などを經由することなく、広島からいきなり海外に出るのも当たり前になってくるかもしれません。アフターコロナの時代において、どういう自分の未来像を描くのか、是非、考えて下さい。

さらに、自分の未来の選択にあたって考えてほしいことは、これは1番目に述べた人間の未来の選択にも直接に関係することですが、自分の未来の選択を人間の未来の選択の中で考えてほしい、ということです。コロナ禍は現代社会の抱えるいろいろな課題や矛盾をはからずも全世界の人々に明確に提示することになりました。そうした状況において、人間の未来がより良い方向に進むように各個人が自分の未来を選択していくことがますます重要になると思います。

以上、これから大学生活を送るにあたって、考えてほしい2つのことを述べました。こうしたことを聞くと、自分達の大学入学に合わせてるように新型コロナウイルスが出現し、感染拡大したことは本当に運が悪いと皆さんは思うかもしれませんが。しかしながら、この新型コロナウイルスのパンデミックは世界あるいは日本の転換点、変革点になる可能性は多いにあります。そうした転換点を直接経験できることは人類の歴史においても滅多にないことだと思えば、非常に運がよい、ということもできるでしょう。飛躍のチャンスはこうした時代の転換点にこそ数多くあることは歴史が証明しています。皆さんの頑張りに期待します。

さて、私の訓示の最後は、4月の入学式が中止となり、ウェブで公開しました学長訓示において引用した2人の先人の言葉をここにもう一度、繰り返すことで締めくくりとします。

19世紀の米国の哲学者であるラルフ・ワルド・エマーソンはこう言ってい

ます。

「人生は経験だ。経験は多いほどいい。」

まさにこの言葉の通りです。何事でもチャレンジすれば、新しい出会いがあり、新しい知見を得ることができ、自分の新しい可能性も開けるかもしれません。もし、何かについて、やろうかどうか迷ったら、とりあえずやってみる、という精神が大切です。

もう一人の先人は大正から昭和初期にかけて活躍した、広島県庄原市出身の劇作家である倉田百三の言葉です。倉田は若者に向けて

「青春は短い。宝石のごとくにしてそれを惜しめ。」

と書き残しました。皆さんは、これからの学生時代を宝石のように大切にしながら、自分の夢の実現に向かって挑戦してください。ウィズコロナであってもアフターコロナになっても、本学は皆さんの夢の実現を全力で応援します。

以上、皆さんのこれからの広島市立大学での日々が実り多いものになることを祈念しまして、新入生歓迎式の学長訓示とします。

2020年（令和2年）9月25日

公立大学法人広島市立大学 理事長・学長 若林 真一